

高齢者の配色嗜好(1) - 服装色について -

○今井弥生* 井澤尚子* 長塚こずえ** 椋梨純枝*³ 橋 喬子*⁴ 家永晶子*⁵ (*東京家政学院短大 **東京家政大短大 *³宇部短大 *⁴夙川学院短大 *⁵樟蔭東女短大)

目的 日本の人口高齢化率は24年で総人口の14%を超え、ヨーロッパ先進国に比べ異常な速度で進行している。色彩・意匠学部会は長寿社会の到来に向けて1987年から高齢者の色彩感情についてパネル調査を実施してきた。その一環として本報は服装色における配色嗜好の問題を検討する。高齢者の視点で好まれる配色に関して殆ど未知であり、ゆとりと豊かな生活の実現を目指した衣色彩計画の基礎資料を得ることを目的とした。

方法 対象 65歳以上の健康な男女2,004名。試料 JIS Z 8721より系統的に選択した有彩色75色、無彩色5色をN7の台紙に貼付したカラー・チャート。調査場所、期間 部会員が在住する地域の老人クラブ、敬老館、オフィス、在宅等で質問紙法、面接調査を1987年9月1~30日に実施。色彩の観察 JIS Z 8723に準じ、分類JIS Z 8102による。質問、いま着装したい色彩、一色の場合、二色配色の場合を色相ごとに集計し、その嗜好率と相関、性別、色相とトーンの分布から高齢者の配色特性を分析する。

結果 全被験者の配色嗜好1位はN9.3とN1.2, 2位は3.6YR2.6/3.2と10YR7.1/1.2, 3位はN7.5とN5.4であり、男女間の相関は0.30と低く配色嗜好は異なる。性別では女性は全色票を用い、男性は10PB5.0/4.0, 6.5P6.1/7.3, 4.4R4.2/13.7は出現しない。色相とトーンの分布において男性は暗い青, 白, こい灰, 明るい灰みの青。女性は明るい灰みの紫, 明るい灰みの赤紫, こい青紫, 白との配色が好まれ、単色の嗜好色と服装色の配色嗜好に関係が強いが、男性は中位である。単色の嫌悪色の黒と暗い灰は、服装色の配色には上位である。又、明るい赤, あざやかな赤は男女ともに配色嗜好に出現しない。